

近年、関東地方とりわけ千葉県内で発見された集落遺跡から多量に出土する墨書土器を素材として、墨書土器論や集落論を展開した著書・論攷が次々に公表されていて、墨書土器を考へる上での基礎資料の整理・公刊が待たれているが、そうした情況のなかで、このたび船橋市郷土資料館の手で船橋市内出土の墨書土器が集成されて刊行された。同館で企画された展示の際に集められた資料を基礎としてまとめられたもので、同市内の夏見大塚・本郷台・印内台の三遺跡出土のもの二〇〇点足らずが収録されている。遺跡ごとに、墨書土器の写真あるいは実測図、墨書の拡大・実大写真あるいは実測図、及び积文、出土遺構、収蔵台帳の番号を載せている。収録されたなかでは「福」「永」と墨書のあるものが圧倒的に多い本郷台遺跡出土の墨書土器が特に注目を惹く。「福」「永」の文字には同筆かと思われるものが多いだけに筆跡鑑定が行われ、その成果の上に立つた墨書土器論・集落論が展開されることを希みたい。

『船橋市郷土資料図録4 墨書土器Ⅰ』

〈申込先〉 船橋市薬円台四―二五―一九 船橋郷土資料館

頒価一七〇〇円 二二五〇円

奈良時代後半頃の掘立柱建物の身舎柱穴の柱抜取穴から漆容器の曲物に付着した漆紙文書（小子・小女等の歴名）が出土した。

奈良国立文化財研究所発行

(A四版 本文七四頁 図版二三頁 一九八五年三月刊)

